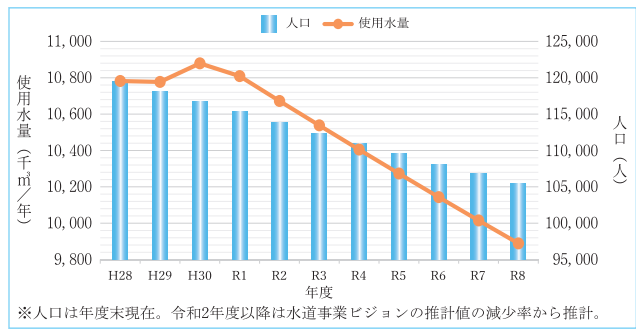




■グラフ1 本市人口と水道使用水量の推移



水道事業は、水道施設の更新や耐震化を進めながら、安全・安心な水を安定して供給しなければなりません。市内に埋設されている水道管の総延長は約186.2キロメートルに及び、その15%程に当たる28.4キロメートルが法定耐用年数の40年を経過しています。地震などの災害による被害や老朽化による漏水が懸念されるため、老朽管の更新と耐震化を計画的に進め、災害などに備える必要があります。

広域受水と老朽化する水道施設への対応

本市の人口は、平成7年をピークに年々減少しており、28年に11万9,502人だった人口は、令和8年には10万5,437人になると推計されています。人口に比例するように使用水量も減少していますが、この背景には家電製品などの節水機器の普及、節水行動の定着などもあると考えられます。

水道事業を取り巻く状況の変化

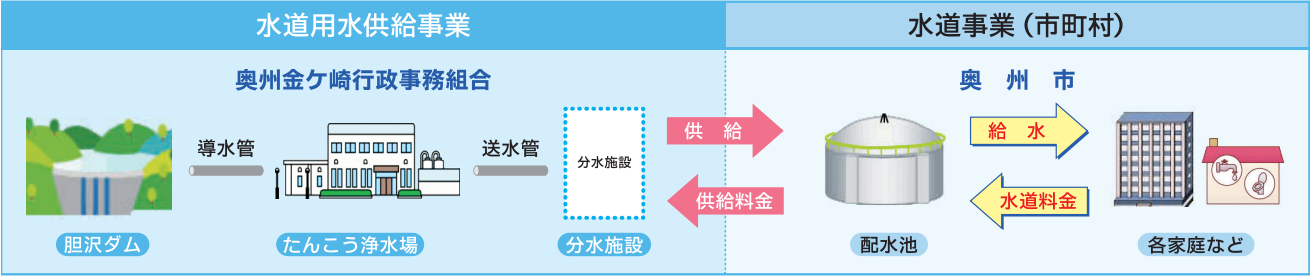
トータル、給水人口は10万5,840人でした。

また、胆沢ダムを水源とする「胆江広域水道用水供給事業」が平成26年から本格的に始まりました（図2）。今後はこの広域受水のための施設を整備しながら、老朽化した水源や施設の再編や統廃合を進めていかなければなりません。



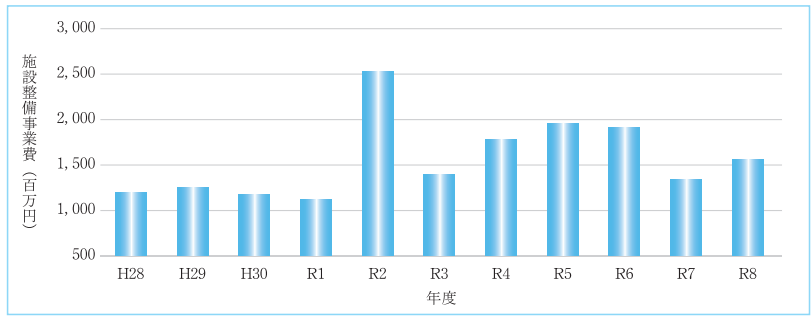
新藤里配水池（広域受水計画で新設した施設）

■図2 広域水道事業の概要



注1 水道用水供給事業とは、水道用水供給事業者（奥州金ヶ崎行政事務組合）が水道事業者（奥州市）へ水道水を供給する事業をいいます。
 注2 水道事業とは、水道事業者（奥州市）が各家庭などへ水道水を給水する事業をいいます。

■グラフ2 施設整備事業の内容と事業費の推移



事業	事業の内容
◆施設更新改良事業	施設の機器類の定期更新
◆施設耐震化事業	重要な水道供給施設や基幹経路、災害時の重要拠点施設への配水管路の耐震工事
◆老朽施設更新事業	老朽化による施設の更新
◆広域化促進事業	胆沢ダムからの受水に対応するための施設整備と統廃合



安全な水

を、お届けするために

水道料金据え置きのお知らせ

市は、3年度から5年度までの水道料金の検討を行い、5年度まで据え置くことにしました。私たちの生活に欠かさない「水」と水道事業を取り巻く状況、そして今後の水道料金についてお知らせします。

■問い合わせ 上下水道部経営課経営係（江刺総合支所・☎34-1516）

水道の歴史

本市の水道事業の歴史は古く、昭和元年に旧江刺市が一日最大給水量400立方メートル、給水人口5千人で創設されました。次いで26年旧水沢市、36年旧前沢町と続き、42年旧衣川村、43年旧胆沢町で給水を開始。高度経済成長とともに普及が進みました（図1）。近年は、給水区域の拡張も終わり、生活用水の安定供給、効率的な配給水などに取り組みながら、簡易水道事業との統合を行い、合理的かつ効率的な運営に努めています。

■図1 水道供給範囲図

